

『イースターの3つの意味』 ルカの福音書24章1～11節 2018.4.1(イースター礼拝説教より)

『…キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれ、また、葬られた、また…三日目によみがえられた…』
I コリント 15:3～4

死ほど悲しいものはないが、いくら亡骸にすがりついて泣いても、そこに希望はない！「空っぽの墓(主は甦られた！)」の歴史的事実こそ私たちの本当の希望！イースターには3つの意味がある。

①神との親しい交わりが回復する道(創世記 2:17、ローマ 6:23)…人は創り主から命の息が吹き込まれて生きた者となったが約束を破って裏切る！自分で善悪を判断する自分中心者となり、神との親しい交わりが絶たれ、靈的に死ぬ！その結果、自分が『神様に属する者であること(イザヤ 43:1)』がわからなくなり、生きる意味や目的を見失う。また自分が『愛されている者であること(イザヤ 43:4)』がわからなくなり、お互いが愛し合うために生まれてきたことがわからなくなり、裁き合う者となった！『罪から来る報酬は死です…しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです(ローマ 6:23)』。私たちを創り、愛された神は、肉体をとって世に来られ、その背きの罪の罰を代わりに十字架で受けて死なれたが、3日目に甦られ、私たちと神様が再び、親しく交われる道を開かれた！そのイエス様を自分の救い主として信じる人だけが、父なる神のもとへ(ヨハネ 14:6)！

②死に打ち勝つ力(I コリント 15:50～58)…血肉の体(朽ちるもの、死ぬものは御国を相続できない！肉体で犯した罪は肉体で償うもの『血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはない(ヘブル 9:22)』の通り！神は私たちの肉の罪の呪いを全てイエス様に負わせ(イザヤ書 53:3～5)、その贖いにより私たちへの処罰は終わり、信じる者に永遠の命を約束された。この朽ちる肉体は地上に帰し、霊は復活の身体をまとい、永遠の命をもって御国に生きる希望がある！★あなたはこの希望に今生きている？

③永遠の愛の証明(ローマ 8:34～39)…すべての人は、死んだ後に神の前に立つ(ヘブル 9:27)が、そこに弁護者(イエス様)おられる！神は、私たちが生まれる前も、今も、将来も変わることなく愛される(エレミヤ 31:3)！イエス様の十字架と復活は、神が永遠の愛で、私たちを愛しておられることの証明！

★このイースターの朝、あなたのために「死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエス」を自分の救い主として信じ、創り主との親しい愛の交わりに返り、復活の希望と永遠の愛に生きる喜びを受けて欲しい！